NIE実践報告

1．タイトル：教科書から学び、地元の新聞を読もう!

2．学校名

北海道帯広市立西陵中学校

3．実践者名（代表者名）

世良田　有香

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会・地理

6．単元（本時の学習課題）名

日本におけるエネルギー問題

7．目標（狙い）

(1)世界、日本の資源の現状に関心を持ち理解を深める。
(2)新聞、ビジュアル地理(副教材)のグラフ・記事などから日本のエネルギー問題を考察し自分の意見を言える。

8．評価の視点

(1)鉱産資源が有限で、日本には乏しいと理解できる(知識・理解)。
(2)新聞から日本の電力・北海道の電力の現状を理解できる(資料活用)。
(3)北海道・日本の電力需要の増加、発電方法の変化を資料から読み取り、意見を述べる(思考・判断・表現)

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

世界と日本の資源と産業(5時間)　1.世界の鉱産資源の分布・消費　2.(本時)日本のエネルギー問題　3.日本の農・林・漁業　4.日本の工業・サービス業　5.世界と日本の産業・資源についてのまとめ(調べ学習)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)導入　エネルギー資源、発電方法について自分が今まで学んだり、既に知っていることから発言。学習全体のめあてをもつ。
(2)展開と課題追求　・発電方法とその利点について教科書、副教材から読み取りノートにまとめる。
・原子力発電の増加と理由を考える。新聞記事から根拠を示させる。
(3)まとめ　原子力発電の利点と問題点、自然エネルギーと共通する点を複数資料から発見し発言させる。
(留意点)
・2009年12月2日北海道新聞「泊3号機　今月下旬から運転」より大見出し、小見出し、棒グラフに着目させる。
・「原子力=危険」と短絡的に考える生徒には記事から安全性を保つ努力をしている旨を示す。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・北海道の電力もこれほど原子力に支えられているとは思わなかった。
・道新をじっくり読めた。
・原子力発電は危ないだけではないと気付いた。　(生徒の意見より)

12．成果と課題

・新聞記事から北海道のエネルギー問題(電力)について考えを深めることができた。
・原子力発電の仕組み、プルサーマルなど記事を理解する上で用語や最新のニュースについて事前学習をすすめ用語を理解させなければならなかった。